

汽車は進動し初めた。

やれ〜。

福岡のダ、支店長の所へ今晚中には行けるかも知れん。

午後二時頃だつた。

倉敷、王島、笠岡を過ぎて、福山邊りから女學生が乗り込んだ。

新吉は、お輕ぢやないかとか、わけて年増はなほ可愛いとか、越後獅子や木曾節なんかも唄ひ出した。

便所へ行つたり立つたり坐つたりした。

毛糸の編物をしてゐる女學生の側へ行つて、毛糸をおくんなさいと言つた。

車掌が来て、

「静かに静まつてくれ、他の乗客の迷惑になるから、大きい聲でドナラない様に」と言つた。

ガタガタ馬車みたいな汽車が矢筈しいだい」新吉は言つた。

次の驛が松永だつた。